

観察樹に樹名板を取付けて、春夏秋冬の姿「冬芽・展葉・開花・結実・紅葉」などを勉強します。

この取組の思いについてお話ししますね。

ここは中ノ沢渓谷森林公園の中でも一番標高の高いところ、向かい側には五頭連峰県立自然公園の菱ヶ岳登山道の入口です。昨年夏までは登山道入口周辺は鬱蒼とした広葉樹と笹藪でした。

登山者は、此処からかなり長い距離を歩くブナ平・与平ノ頭を経て連峰の稜線へ上がり菱ヶ岳を目指すためか、先を急ぎ、この周辺のかなり高木の広葉樹木が見せる四季の魅力ある姿には目もくれません。

そこで、昨年(2019年)秋にかけて、この登山道脇の高広葉樹の下に拡がる実生で発芽したリョウブ・ヤマウルシ・タニウツギ・ユキツバキ・蔓性イワガラミなどの灌木と笹藪原の除草除伐を行いました。結果は見違えるようにすっきりとした景観となりました。公園周囲を巡る管理用舗装通路は樹木の観察道となりました。

そして、お山の森の木の学校の明石浩見代表に案内いただき、残された高木広葉樹の樹名をご指導いただきました。このホームページの「樹木種と四季の姿」に掲載した Fig - 12 グリーンハウス前の森林公園の樹木写真の項に樹木名を入れてあります。その樹木名を辿りながら四季の姿「春の展葉・開花・実生・紅葉・冬芽」を観察できることはとても嬉しいことです。自然の営みを観察する中で、樹々の特徴ある美しさを楽しむことができます。また、このホームページの主題である「学習の森」から授けられる教えを学ぶことができます。どんな樹なんだろう?と興味はつきません。

さて、ここからが本題です。その菱ヶ岳登山道入口前対面にある境界杭で境を明示してある公園もかつては小学生が草刈りなどの体験実習をしたところと聞きました、しかし昨年秋の状況はとても中を遊歩観察することができない笹藪と灌木蔓が絡むところでした。このエリアを小学生がスニーカーで遊び学ぶことができる場所にできないかと、昨年2019年11月から今年3月末にかけて灌木の中で観察木として残したい「稚幼樹」を選定し、笹藪を刈払い縦横無人に蔓延った灌木の除伐をしました。

そして、また、明石代表にその手の届く高さの「稚幼樹」にテープに樹木名を入れ込んでもらいました。

4月末となって、それらの「稚幼樹」の展葉が始まりました。次回この項のアップにはそれらを目線で観察できた姿の一部を紹介できればと思います。このホームページの読者の方も一度訪れて観察されてはいかがですか。それでは次回お楽しみに!